

(様式第1号)

令和元年度 第2回芦屋市環境審議会 会議録

日 時	令和元年12月24日(火) 14:00~16:00
場 所	芦屋市役所北館4階 教育委員会室
出席者	会 長 久 隆 浩 副 会 長 秋 本 久 美 子 委 員 市 橋 純 子 委 員 井 上 尚 之 委 員 近 藤 博 幸 委 員 多 田 洋 子 委 員 天 王 寺 谷 祥 一 委 員 美 濃 伸 之 委 員 中 島 健 一 委 員 寺 前 尊 文 欠席委員 伊 藤 明 子 欠席委員 長 城 紀 道 事 務 局 森 田 昭 弘 事 務 局 米 村 昌 純 事 務 局 岡 本 祐 子 事 務 局 横 田 愛 里 行 政 職 員 船 曳 純 子 行 政 職 員 藪 田 循 一 行 政 職 員 岡 本 周 三 行 政 職 員 夏 川 龍 也
事 務 局	環 境 課
会議の公開	■ 公 開
傍聴者数	0 名

1 会議次第

(1) 開 会

(2) 委員及び行政職員の紹介

(3) 会 議

1) 委員出席状況の報告

2) 署名委員の指名

3) 議 事

① 第3次芦屋市環境計画の中間評価及び「平成30年度」進捗状況及び自己評価結果について

② 今後の第3次芦屋市環境計画の「評価方法」の見直しについて

③ 第4次芦屋市環境保全率先実行計画の進捗状況について

(4) その他

(5) 閉 会

2 提出資料

①会議次第

②芦屋市環境審議会 委員名簿

③第3次芦屋市環境計画中間評価報告書

④第3次芦屋市環境計画実績及び自己評価報告書（平成30年度）

⑤R1年度実績以降 第3次芦屋市環境計画実績及び自己評価報告書

⑥第4次芦屋市環境保全率先実行計画年次報告書（H30）

⑦エネルギー等使用量（令和元年度第1四半期）（速報値）

⑧エネルギー等使用量（令和元年度第2四半期）（速報値）

3 会議経過

開 会

- ・事務局より開会挨拶及び資料の確認
- ・市長あいさつ
- ・委員及び行政職員紹介

会 議

(1) 委員出席状況の報告

事務局より、定数12名中、10名の出席につき会議成立と報告。

(2) 会議の公開・非公開の決定

出席委員の全会一致により公開を決定。また、会議録についても公開を決定。

(3) 署名委員の指名

芦屋市環境審議会規則第5条の2第2項に基づき、久会長より市橋委員及び井上委員を署名委員に指名。

この時点で傍聴希望者はなし。

議 事

① 第3次芦屋市環境計画中間評価報告書について

(久会長)

「事務局より説明をお願いします。」

事務局より委員のみなさまからいただいた意見を、最終の中間評価報告書に向けた作業に反映できるようサンワコン担当者を同席させたい旨を提案し、出席委員の全会一致でこれを承認。担当者2名が入室。

(株式会社サンワコン (以下, 「サンワコン」) 担当者の入室)

(事務局より資料説明)

(中島委員)

「平成30年度実績1ページの, 基本目標③の無電柱化についての評価が「B」となっていますが, 7ページの評価は「A」となっています。どちらが正しい評価ですか?」

(事務局)

「申し訳ございません。正しくは, 1ページの「B」評価となりますので, 訂正いたします。」

(美濃委員)

「アンケートのサンプルについてですが, 市民の調査対象者は, 30代, 40代, 50代と均等にバランスはとれているのでしょうか。どこかの年齢層に偏りはないのでしょうか。」

(事務局)

「市民の方は, 18歳以上の方を無作為に2,000名の方を抽出しましたが, 回答者数の結果を年代別にまとめたものを見ますと, 30代~70代は同じぐらいの人数で回答いただいています。」

(井上委員)

「平成30年度実績5ページの指標にある, 騒音・振動・悪臭の苦情件数についてですが, 具体的に芦屋ではどのような苦情があるのでしょうか。」

(事務局)

「騒音は, 特定建設作業による騒音についての苦情が多いです。」

(井上委員)

「わかりました。もう1点、7ページの無電柱化率についてですが、14%という割合は何に対してでしょうか。市内全体の14%が完了しているということですか。」

(事務局)

「市内全域に対してではなく、無電柱化を計画された地域における割合であると思います。」

(井上委員)

「わかりました。素晴らしいと思います。あと、基本目標③に犬のお散歩マナーについてありますが、モデルロードはどれくらいの長さですか？」

(寺前委員)

「1kmぐらいです。」

(井上委員)

「この道には、犬の糞をとるような袋とかが置いてあるのですか？」

(事務局)

「そういったものではなく、看板の設置や、タイルを設置することで、お散歩されている方の意識を啓発するような取り組みになります。」

(中島委員)

「中間評価報告書についてです。8ページ基本目標②のまちの静けさに関して、市民の方と職員の方の評価は結構高いように感じますが、児童・生徒が低い理由は何か分析できていますか？もしあれば教えてください。また、20ページのリサイクルに関して、職員の方の取り組み率が市民の方と比べると低いので、なんとか改善できたらと思います。」

(久会長)

「満足度に関しては主観的な部分なので、分析はなかなか難しいように思います。子どもたちが何をもちて静かだと感じるのかということもあります。大人はおそらく、他の街と比較して、静かだと回答されていると思います。子どもたちは芦屋市内が主な生活範囲だと思いますので、その中で何か音が出るとうるさいと感じる可能性もあります。」

(寺前委員)

「アンケート調査票の質問に、お住いの地域を記入するような設問はありますか。また、あるとするならそれを報告書に掲載する予定はありますか。」

(事務局)

「地域はお答えいただいています。集計の結果は、バックデータとしてホームページでの掲載を予定しています。」

(寺前委員)

「わかりました。芦屋市の特徴として、南北に長く、山と海に接している街ですので、山手にお住まいの方と、浜手にお住まいの方で環境に対するニーズは変わってくるのではないかと思います。エリアごとに、どのようなニーズや認識があるのか、そういった部分を把握する際にほしいデータだと思いましたので、データとしてあるかどうかお伺いしました。

それと、市民の方からの回収率が48.5%ということで、多い、少ないはいろいろあるかとは思いますが、他に市がやっているアンケートやパブリックコメントと結果からみると高い回答が得られていると感じます。環境関係の団体さんが対象というわけではなく、無作為抽出ということですよ。市民のみなさんの環境に対する意識が高いのかな、と感じました。」

(久会長)

「おそらく環境に関心の高い方が回答してくださっているのですが、実際には、この結果から差し引いて考えないといけないのかなと個人的には思っています。例えば、特に取組み率に関しては、やってらっしゃらない方ほど返答をされていない可能性があります。また前半部分のエリアごとの集計に関しましては、事務局とも事前にお話をさせていただきました。南部と北部で、環境に対する意識の部分ではなく、南北の状況差についての結果が出る可能性もあると思いましたので、公表に関しては慎重になるべきではないか、と意見させていただきました。」

(多田委員)

「30年度実績報告の5ページ、主な実績紹介の中に大気の常時監視とあります。神戸製鋼所の方も来られていた会議に以前出席したとき、火力発電所ができるという話をされました。その時に常時監視の話もされて、基準は何ですかとお尋ねしました。国の基準とおっしゃいましたけれど、まだ建ってもいない段階で、数値はこれですと明示されました。じゃあ神戸製鋼所の火力発電ができて、実際にばい煙とか大気の数値が超えたらどうするのですか？とお尋ねしました。投げかけたままになっていたもので、その答えが聞きたいです。環境のことをみなさん一生懸命考えてやってくださっているのは分かっていますが、その点についてお伺いしたいです。」

(久会長)

「環境影響評価の評価書に書かれていたと思いますが、そのあたりは切り分けて考える必要があるかと思います。5ページの常時監視については、全国でポイントを決めて、大気の状態を常に監視をしていくものとして定められているものです。一方で、火力発電所も含めて、一定の施設が新設された場合には評価書を出しますが、その段階では計算式での予測値ですので、そこを超えるか超えないかという点は常時モニタリングで、事業者が別途するという事になっています。その時に、予測値どおり動いているかどうか、事業者側が監視を行います。なので、ここは少し切り分けて考えていったほうがいいかと思います。」

(多田委員)

「わかりました。」

(久会長)

「私が気になっているのは、基本目標④と⑤の取組み率が前回と比べて下がっていることです。COP25でもいろいろ言われている中で、市民の取組み率は下がっており、逆方向に進んでいることとなります。この辺りは啓発活動も含め、再度市民を巻き込んだ活動を取り組んでいただきたいなと思います。今後は、市自らの頑張り以上に、市民の取組みをいかにあげていくかということ、市民団体さんも含めて、目標として頑張ってもらいたいと思います。芦屋市に限らず、環境意識の高い方はこれまでも取り組んでおられます。そうではない方へ、どのように活動を広めていくのかということ、頑張ってもらいたい必要があるかと思います。環境の呼びかけをすると、環境意識の高い方へヒットするという傾向がありますので、どうしたら環境意識が追い付いてない方へ届くのか、若い方へどのように呼びかけていくか、私も含めて一緒に考えさせていただければと思います。」

② 今後の第3次芦屋市環境計画の「評価方法」の見直しについて

(久会長)

「事務局より説明願います。」

(事務局より資料説明)

(久会長)

「全体のフォーマット等は概ねできておりますので、今回は具体的に書き込みのありました、指標等が妥当かどうかというところを見ていただけたらと思います。」

(井上委員)

「7ページ基本目標④の左下、指標と目指す目標・方向性のところについてです。SDGsやク

ールチョイスへの取組みに対する啓発とあります。市長もSDGsのバッジをつけておられましたが、市役所全体で取られるのであれば、このようなバッジをつけるというのはいかがでしょうか。SDGsやクールチョイスへの取組みに対する啓発に対して、目指す目標・方向性は取組率の増加となっておりますが、増加というのはいかに判断しますか？」

(事務局)

「今年度もクールチョイスの啓発は市民の方へ対していろいろなイベントでさせていただきました。エコドライブや、LEDを使った工作教室など、楽しさを取り入れた啓発を行い、その際にアンケートを取りました。クールチョイスを知っているか、どんな取組みをしているかなど。イベントを継続することで、知っているや、やっているということが増えていくと思いますので、そこで取組率の向上を見ていけたらと思っています。」

(久会長)

「井上委員のご質問は、「具体的にどこでどのようなデータをとって、それがどうなったら増加と判断されるのか」ということをもう少し詳細に教えていただけませんか、ということだと思います。」

(井上委員)

「SDGsを取り組んでいるというのは、具体的にどこで判断するのかということです。例えば、明石市は市の広報にSDGsのアイコンを該当する箇所に記載しています。芦屋市もそういうことはされていますか。」

(事務局)

「芦屋市では、第4次総合計画を見直しているところで、第5次総合計画ではそれぞれの施策がどの項目に当てはまるか、明記する予定になっています。」

(井上委員)

「提案ですが、明石市では、この施策はSDGsのこれに該当します、ということを広報にアイコンを載せていますので、そうすることで市民のみなさんにも知れ渡っていくのではと思います。」

(久会長)

「今は経団連も力を入れているので、事業者さんもつけている方を多くみます。意味を分かかってつけている方が全員というわけではないようなので、バッジをつけるイコール認知度が高まるということでもないのかな、とは思いますが。近畿大学は来年度からすべての学部の基礎ゼミで2コマ以上SDGsを説明しなさいということになりましたので、聞いたことがあるかどうかの確認はできますが、取組みに関してはまた別のことになるかと思っています。」

どのような取組みをカウントするかという点は考えていただく必要があるかと思います。また、指標のところに「啓発」とありますが、これは取組のことを書いているのであって、指標という点でいうと、取組率や認識度というものが増加するのか減少するのかという書き方がいいかと思います。ほかのところも含めて、確認してもらえたらと思います。」

(多田委員)

「基本目標③に美しいまちなみを育むとあり、その中にペットの糞とかありますが、最近芦屋川や宮川に鳥が飛んできて、餌を与える人がいます。そうすると、糞がでることにつながります。どこが担当なのか、という話もあるのですが、マナー条例とは関係ないものですか？まちなみを美しくするというでマナー条例に関係するのかなと思います。」

(事務局)

「マナー条例に該当するものではないと思います。」

(久会長)

「それにつきましては、具体的なお話になるので、また別途ご検討いただければと思います。」

(中島委員)

「7ページの街路灯のLED化のところ、増加させていくということですが、もともと計画や年度予算があって、将来的には100%になるものだと思います。ここに挙げているのは、それ以上に増加させることを意味するのでしょうか。それとも、市の計画そのものですか？」

(事務局)

「基本的には、環境計画も市の計画に合わせたものになっているので、市の取組み事業で合致しているものは、プラスαではなく、そのものを目標として記載しています。街路灯のLED化もそれに該当します。」

(中島委員)

「すでに計画はありますし、今後100%になる事業だと思ったので、あえてここに書くということはそれ以上を、ということかと思ったのですが、そうではないということですね。」

(事務局)

「はい。街路灯のLED化という事業そのものが省エネ事業になるので、環境計画の観点から、そのような事業を目標にしていると考え、違和感はないのかなと思います。」

(中島委員)

「先ほど会長からも、指標についていろいろお話がありましたので、全体的に一度見直していただけたらと思います。あと、評価の方法についてですが、かなり細かく詳しくなっていて事務量が増えるかと思いますが、その点は大丈夫なのでしょうか。」

(事務局)

「幹事会で諮っておりまして、承諾は得ています。」

(中島委員)

「大変だとは思いますが、それが功をなして市民の方々に還元できるのであればいいかと思えます。負担だけ増えてしまって大変にならないよう、削減できるところは減らす方向でやっていただきたいと思えます。」

(久会長)

「必ずしも特別な頑張りが必要というわけではなく、継続的にできているかというところをチェックしていく指標もあっていいかとは思えます。そういう意味では、LED照明に変わっていくことによって、省エネがどんどん進んでいくことになるので、この指標も考え方によっては妥当といえるのではないかと思います。」

(寺前委員)

「先ほど会長からもご指摘がありましたが、指標と目指す目標・方向性の部分について違和感を覚えた部分について指摘させていただきます。1ページ基本目標①下の段、保護樹林や市内樹木の保護、芦屋川・宮川・南芦屋浜といった水辺の環境の保護に対して、適切な管理とありますが、管理するのは当たり前のことであって、達成度を評価できる指標としてそぐわないのかなという印象を受けました。数値化などで判断できる形を示すほうが良いのではと思いました。2つ目に、5ページの基本目標③の下の段、市民マナー条例啓発キャンペーンの実施や放置自転車の撤去に対して、撤去自転車数の減少はカウントできると思いますが、ポイ捨てごみやペットの糞については都度カウントしているわけではないですね。なので、例えば苦情件数の減少などの言い回しにさせていただいたほうが馴染みやすいのかなと思いました。」

もう1点質問です。各課で施策の設定をしていただいたということですが、環境課とそれぞれの担当課ですり合わせをして、目標設定をしていただいたということによろしいでしょうか。」

(事務局)

「はい、そうです。」

(寺前委員)

「よく総合計画とか各種計画の時に気になるのが、設定した目標が、達成しやすい目標か、達成しづらい目標であるかで、後の評価にも影響すると思いましたので、担当課とのすり合わせを確認させていただきました。」

(久会長)

「そのあたりは、今回難易度というものをつけていただいていますので、反映はできるかと思えます。」

(事務局)

「指標についてですが、この計画ができた時から指標はありました。最初は目指す目標や方向性はざっくり決められていただけでした。審議会の中で先ほどの寺前議員のような指摘をいただきまして、わかりやすい指標にということで数値化しやすいものになっていき、数値目標に対しての評価にたどり着いたのが昨年までの評価です。そうすると、今度はこの指標にばかり着目してしまい、「基本目標」に対しての評価となっていないのではないか、というご意見があったのが昨年度でした。なので、今回見直しをかけてこのように変えています。指標というのはそもそも数値にとられるものではなく、ざっくりとしたものであるべきではないかということだったので、数値化するのではなく大枠だけを示させてもらっています。」

(寺前委員)

「そのような背景があるということでしたら、納得いたしました。」

(久会長)

「今5ページを見ていただいていると思いますが、右側に施策の評価という項目があります。そこに施策の方向が3つあります。3つ目の、きれいなまちなみを保つというざっくりした方向性を、どのようにざっくり評価できるか、ということで今回はこのようになっているわけです。なので、代表指標として追いかけていくものが、これで妥当かどうかということについてのご意見を参考にさせていただいたら、と思います。細かいことは、その次の6ページに書いてあります。今まではこれを合計点としてやっていましたが、合計点ではなく、全体をざっくりと見たときの指標は何だろうか、ということで検討いただいたものになります。」

(事務局)

「この計画が終わる年度に見直しをする際に、アンケートをまたとると思いますので、この指標が達成できているか、改善できているか、という評価を改めてさせていただく形になると思います。」

(美濃委員)

「SDGsについてです。基本目標④の地球温暖化を防ぐのところが指標として、SDGsの取組みについて書いてありますが、SDGsはこの基本目標全部に関わっているように思います。そもそも、自分事化をしてもらおうゴールなので、ここだけに記載してしまうと、細かな部分だけをやってしまうことになってしまわないかなと。どのように考えておられますか。」

(事務局)

「確かに、おっしゃられる通りだと思います。この中間評価の時に、アンケート結果があまりにも低いものだったので、何かしないといけないという点で指標に入れたのですが、おっしゃられるように基本目標④だけにおさまるものではないので、ここは見直そうと思います。」

(美濃委員)

「SDGsはいろいろな要素でできていて、何がそうでそうじゃないのか、という判別もしにくいです。検討いただけたらと思います。」

(久会長)

「本当は計画そのものを策定した時に気づくべきだったと思いますが、施策の方向性は、地球規模の環境問題やエネルギーのことを知る、となっています。施策の下2つは、関心を持つや興味を持つ、となっていますが、1つ目は使用量削減に努めますとなっています。踏み込んでしまっています。ここが、レベル的に違うように思います。本来この方向性は、「知る」なので、認知度にとどめておいたほうが相応しいかなと思います。」

(井上委員)

「先ほど美濃先生がおっしゃったとおり、SDGsというものは基本目標1から5まで全部入っています。なので、基本目標4にだけあるのは、おかしいなと思います。初めに全体にかけて言うか、すべてに入れるか、そのような対応が必要かと思います。」

(事務局)

「基本目標4の指標に関しましては、取組率が下がっているというアンケート結果があったので、取組率の増加という形で入れたかったという考えがありました。SDGsという言葉は入れずに、再度検討させていただきます。」

SDGsは環境にとどまらないものです。人権、観光、貧困など様々です。先ほども少々説明ありましたが、来年度策定する第5次総合計画の中で、SDGsを1つのキーとして使う予定です。環境分野にとどまらず、すべての施策においてツールになるかと思います。ですので、ここでの指標は工夫させてもらいます。」

(秋本委員)

「ライオンズクラブもSDGsに取り組んでおりまして、芦屋市に何かできないかと模索しているところです。ぜひ啓発という意味で勉強会のようなものに取り組んでいただけたらな、と思います。」

(久会長)

「5ページにオープンガーデンの参加者数とあります。これは、みどりに囲まれた憩いの場をさらに充実させる、という施策に対しての指標だと思います。オープンガーデンというものは、庭を見ていただくという取組みなので、活用するという観点はありますが、緑化の量を追いかけるという点で考えるとつながらないのではないかと思うので、緑化の状態を表す指標のほうが良いのではないかと思います。」

(街路樹課)

「オープンガーデンの取組みは、一定期間、花と緑をたくさんかざるという取組みになりますので、期間は限定されますが、参加者数が増えることは緑化している場所が芦屋市に増えるということになると考えます。なので、1つの指標としてあげる意味はあると思います。」

(久会長)

「そうですね、とはなかなか言いにくいところです。何かもう少し工夫できるのでは、という気がしています。」

(美濃委員)

「私も同じ意見で、面的、質的な向上に直接取り組めるものの方が、理解できるように思います。民有地を推進するという意味合いであれば、理解できるかなとは思っています。」

(街路樹課)

「民有地も公共の土地も参加者として入っています。」

(事務局)

「なかなか緑化面積を増やすということも厳しいので、市民の方にも参加していただい

る部分で協力していただく形になってしまうのも現状にあります。」

(美濃委員)

「裏面の取組みのところで緑化事業いろいろされているので、このようなものの方がわかりやすいと思います。緑の量など数値化しやすいものの方がいいのかな、と思います。」

(久会長)

「例えば、最近日本中でプレイスメイキングといって公共空間を市民がより楽しくしていこうという試みが増えています。オープンガーデンに加えて、プレイスメイキングのような市民の取組みが、どれだけ出てくるか。この辺りでは神戸の東遊園地が有名ですが、市民主体のイベントをやりながらいきいきとした公園を使っていくような取組みをされています。そのようなイベントが増えていけばいいのかなと思います。1人から始まって、私が面白いなど思っているのが、生駒市の萩原住宅地というニュータウンの中央公園のような場所で、ある子育てママさんがやっておられる、「公園にいこうえん」という面白い取組みです。それは、自分の子どもを公園へ連れていったときに同世代のお子さんがほとんどいない、もっと使おうよということを考えられて、SNSで「□月○日▲時、公園で遊んでいます」という情報だけを流されました。それを見た数組の親子が集まり、さらにそれを見たお年を召した方が、我々は昔遊びを教えられるので、その日に教えましょうか、というように、膨らんでいっています。このような取組みが日本中、世界中で広がっているので、市役所が主体でというわけではなく、市民が主体的に事を起こしていけるようなものが湧き出てくると、公園がいきいきしていきます。そうすることで、公園の質の向上につながるのではないかと思います。またご検討いただけたらと思います。」

(市橋委員)

「オープンガーデンの参加者数が指標としてどうなのかというお話ですが、緑の量を厳密に測ることが目標なのではなくて、緑を増やそうという気持ちを、という点で考えると、オープンガーデンの参加者数も違和感はないように思いますし、ワクワクした気持ち、参加したいな、という気持ちに結び付くようにも思うので、その点ではよいと思います。」

(久会長)

「ありがとうございました。委員のみなさまからたくさん意見を賜りましたので、参考にさせていただきながら、よりよい指標づくりをしていただけたら、と思います。」

③ 第4次芦屋市環境保全率先実行計画の進捗状況について

(久会長)

「事務局より説明願います。」

(事務局より資料説明)

(久会長)

「芦屋市に限らず、今年度のように猛暑が続くと、どうしてもエアコンに頼ってしまってエネルギー使用量が増えてしまいます。悪循環のような気もしますが、それでも努力しないといけない。設備的に対応していることはいかがですか？」

(事務局)

「先ほどの資料、基本目標④のところでも、公共施設への再生可能エネルギーの導入件数は増えています。設備更新や施設改修に合わせるような形にはなりますが、LED化や断熱効果のあるサッシにするなど少しずつ行っています。」

(久会長)

「排出係数の低減ということですが、電力会社によって違いますよね。できるだけ排出係数が小さい、自然エネルギー系の電力を、という動きをされているのですか。」

(事務局)

「電力入札ですそ切り方式を用いていますので、環境省が定めている排出係数を満たしている業者との契約をお願いしています。」

(久会長)

「できるだけ二酸化炭素を排出しないエネルギー源を使っていくことが、これからますます必要になるかと思っています。電気が良いのか、ガスが良いのか、という選択も出てくると思いますので、なるべく二酸化炭素が出ないほうを選ぶということにならざるを得ないのかなと思います。」

(近藤委員)

「都市ガスの使用量について、環境処理センターの運転が平常とは違って、とありますがどのようなことが違っていたのですか。」

(環境施設課)

「環境処理センターではゴミを焼却してしまして、焼却に伴い様々な有害ガスが発生しますが、大気汚染防止法の値を水銀が超過したということで、8月終わりに焼却炉をいったん止めました。改善対策等を行い、9月に点火しました。ゴミを燃やしたときに1000℃ぐらいまで温度を上げますが、温度を上げるときにガスを使用します。温度を上げ切りますと、ガスは止めて、ゴミだけで自然する形になります。そのように焼却炉を止めたり、動かしたりする通常とは異なる稼働の仕方をしたため、ガスの使用量が増えております。」

(久会長)

「再稼働の時に一番エネルギーを使いますので、その頻度がいつもより多かったということですね。

部屋の電気でも、消せる場所は消すというだけでも違ってきます。部屋の中でも明るさは全然違いますので、日中は窓際の電気を消すなどの工夫はできるのかなと思います。そのような工夫ができるような電気系統にしてもらおうよう、工事の時に打ち合わせておくということなどできると良いかと思います。

しっかり取り組んでいただいている施設もありますが、厳しい状況へ進んでいる施設もありますので、さらなる取組みをしていただけたらと思います。

以上、報告事項3点終わりましたが、全体を通して何かございますか？

ないようですので、事務局から連絡事項をお願いいたします。」

(事務局より連絡事項)

以上